

2020/07/29(水)16:01

授業科目名	グローバル社会概論		授業形態	講義
英語科目名	Introduction to a Global Society		開講学期	前期
対象学年	2		単位数	2
科目責任者	玉村 健志		ナンバリング	4101
科目担当者				
玉村 健志、大槻 茂実、佐々木 優				
授業の概要				
<p>本授業は、グローバル社会領域の導入的な授業であり、二年生の必修科目の一つである。グローバルヘルス領域や異文化コミュニケーション領域が人間個人に焦点を当てるのに対し、グローバル社会領域の学問は社会レベルを主に分析の対象とする。グローバル化は地域レベル、国家レベル、国際レベルのそれぞれにおいて様々な影響をもたらしているが、この授業ではそれらの問題を政治学、社会学、経済学など社会科学のアプローチから検討し、討議する。グローバルな諸問題を把握することで、ニュースや専門書を理解し、それらを将来的に活かすために必要な基礎知識を学ぶことを目的とする。</p>				
授業の達成目標				
<p>(1) 世界で起きていることについて、ニュースで見たり新聞で読んだりした事柄に関して自分なりの説明ができる (2) グローバル化した世界における現状と課題を理解できる (3) 自分の意見を述べられる発信力を持つ (4) 物事の見方は一つではないことを理解し、自分とは異なる意見も理解できる (5) グローバル社会領域のその他の専門科目を効果的に学習していく上での土台をつくる</p>				
成績評価方法				
<p>予習課題12%、リアクションペーパーなど復習課題41%、レポート課題47% 詳しい内訳については授業内で発表します。 いわゆる出席点はありません。単に出席しただけでは単位をとることはできないので気をつけること。 60%以上の達成で単位認定となる。必修科目のため単位認定がなされない場合は次年度に再履修となる。</p>				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
<p>・授業内でディスカッションを行うこともあるので、ニュースを見たり新聞を読んだりして世界情勢について予めある程度情報を得ておくこと ・「授業の手引き」を確認し、「オンライン授業参加にあたっての約束」の承認フォームを事前に提出すること(必須)。初回の2日前までに提出した者にのみZoom授業のパスワードが送付される。 ・何よりも授業参加者(受講生、教員共に)に対して礼儀正しく振舞うこと。意見を戦わせること自体は推奨される一方で、個人の人格を貶めたり、傷つけたりすることは許容されない。</p>				
テキスト・参考書				
教科書は指定しない。各トピックに関するものは授業内で都度紹介する。				
オフィスアワー				
各教員のオフィスアワーを確認すること				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
必要に応じて課題を授業内および授業後に返却する。あるいは授業内で全体的な講評を行う。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	玉村 健志、大槻 茂実、佐々木 優	グローバル社会領域は何を学ぶ学問領域なのか、その意義は何か、みなさんと共に考えつつ、この講義の概要を説明する。	<p>【予習】シラバスをよく読み、持参する。「グローバル社会」とは何をを考えてくる(90分) 【復習】講義の内容の振り返りを行うこと(90分)</p>	
2	玉村 健志	グローバル化の功罪	<p>【予習】グローバル化のメリットとデメリットは何か、自分なりの意見を予め考えてくること(90分) 【復習】グローバル化のメリットとデメリットについてリアクションペーパーを書く(90分)</p>	
3	玉村 健志	持続可能な発展	<p>【予習】我々の住む世界が持続可能であるためにはどうすればよいのか、自分の意見を考えてくること(90分) 【復習】持続可能な世界の構築に自分ができることについてリアクションペーパーを書く(90分)</p>	
4	玉村 健志	国際機構	<p>【予習】国際組織はなぜ必要か(不要ならなぜ不要か)自分の意見を考えてくる(90分)</p>	

			【復習】国際組織は誰にとってどのような場面で必要か/不要か、自分の意見を書く(90分)
5	玉村 健志	NGOと多国籍企業	【予習】どのようなNGOや多国籍企業があり、どのような活動をしているか調べてくる(90分) 【復習】グローバルな社会において、非政府主体がどのような役割を果たしているのか自分なりの見方を書く(90分)
6	佐々木 優	経済のグローバル化とは？	【予習】私たちが世界とのつながりについて、普段の生活にある物やサービスをベースに調べること(90分) 【復習】講義の内容の振り返りを行うこと(90分)
7	佐々木 優	貿易の拡大と豊かな生活	【予習】私たちが消費している物やサービスが何処(国や地域)で作られているかを調べること(90分) 【復習】講義の内容の振り返りを行うこと(90分)
8	佐々木 優	企業のグローバル戦略とその功罪	【予習】日本のどのような企業が海外に進出し、ビジネスを行っているかを調べること(90分) 【復習】講義の内容の振り返りを行うこと(90分)
9	玉村 健志、大槻 茂実、佐々木 優	ゲストスピーカーによる講演	【予習】本やネットで難民やUNHCRに関する情報を収集すること(90分) 【復習】講演の内容の振り返り、また自分でも補足情報を調べ、リアクションペーパーを書く(90分) ★コロナウィルスの影響により日程や内容が変わる可能性がある。授業内およびJ-Passで案内するので気をつけること。
10	大槻 茂実	学歴社会	【予習】日本の高学歴者(短大・高専以上)比率を調べる(90分) 【復習】授業内で提示された課題をこなす。課題所要時間は概ね90分をみておくこと。
11	大槻 茂実	移民	【予習】総務省統計局にアクセスし、自分が住んでいる市区町村の外国人人口とその割合を調べる(90分) 【復習】授業内で提示された課題をこなす。課題所要時間は概ね90分をみておくこと。
12	大槻 茂実	都市の衰退と再編	【予習】人口減少時代において都市の再編はいかにして可能か、情報収集を行い自分の考えを用意しておくこと(90分) 【復習】授業内で提示された課題をこなす。課題所要時間は概ね90分をみておくこと。
13	玉村 健志	新型コロナウイルスにより休講になった分をレポート課題で替える	詳細は授業内でアナウンスします
14	佐々木 優	新型コロナウイルスにより休講になった分をレポート課題で替える	詳細は授業内でアナウンスします
15	大槻 茂実	新型コロナウイルスにより休講になった分をレポート課題で替える	詳細は授業内でアナウンスします

2020/06/30(火)11:58

授業科目名	異文化コミュニケーション概論		授業形態	講義
英語科目名	Intercultural Communication		開講学期	前期
対象学年	2		単位数	2
科目責任者	岡部 大祐		ナンバリング	4102
科目担当者				
今井 純子、岡部 大祐、齊藤 美野、高濱 愛、原 和也				
授業の概要				
<p>本科目は、異文化コミュニケーションを理解・考察するための基本理論・概念の習得を目的とする。講義、ワーク、意見交換などを通じて、異文化コミュニケーションに関わる理論・概念を具体例とともに学び、様々な現象を分析・考察する練習も行う。受講生は、協働作業も含めた作品制作課題発表、グローバルな社会的課題と関連したリサーチおよび意見交換などの諸活動を通じて、異なる考え方や価値観への気づきを得ることが期待される。大学の授業というコンテクストにおいても、異なる文化的背景をもつ人々のやりとりが行われていることに注意を向けながら、体験を通じた学びを積み重ねる。本科目での学びを通じ、受講生には、自己、他者、そして様々な現象を多様な視点から捉えることができる柔軟性に加え、異文化に対する許容力を備えた、異文化コミュニケーターへの道を主体的に探っていくことを期待する。</p> <p>本科目は、本学部の4つのディプロマ・ポリシー全てに関わる。異なる意見を尊重し調整する力(②)、自らの見解を発信する力(③)に加え、現代社会の諸問題について他者と協働し、基礎教養や異文化コミュニケーションの知見を活用し、問題解決する力(①、④)を高めることを目指す。</p>				
授業の達成目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 異文化コミュニケーション学の基礎理論・概念について説明できる。 2. 異文化コミュニケーション学の理論・概念を用いて、文化相対的な視点から諸現象を分析・考察できる。 				
成績評価方法				
<p>毎授業の課題提出(60%)、作品制作課題(40%)の合計点に基づき評価する。コース全体の3分の2以上の出席が成績評価対象の条件となる。※「出席」の考え方については下記参照。</p>				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「授業の手引き」を確認したうえで、「オンライン授業参加にあたっての約束」の承認フォームを提出している。 2. 初回授業に必ず出席すること。初回授業時に説明したことは以降の授業の前提となる。 3. 講義の視聴・課題提出を指定期間内に行う意志をもっていること。 				
テキスト・参考書				
<p>教科書：なし(課題回(1)(2)の読み物A・B・C・D・Eは適宜言及される予定)</p> <p>参考書：石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人(2013)、『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション：多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣。</p>				
オフィスアワー				
<p>zoomによるリアルタイム・セッション「ICカフェ」を、火曜日13:30-14:30に行う(時間変更の可能性あり)。参加希望者は、予約フォームを事前に提出すること。(詳細はGoogle Classroomで、また講義中に説明する。)ライブ配信回の日には、「ICカフェ」は、お休みとする(ただし、ライブ配信後に授業時間の余裕があれば、そのまま希望者とのアフター・セッションを行う予定)。※個別の相談は、各教員のオフィスアワーを確認後、教員宛てに指定の方法で連絡してください。</p>				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
<p>課題へのフィードバックは、講義内で行うことを基本とし、適宜Google Classroomも活用する。</p>				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
第1回 課題回	上記担当教員	課題回(1) Google Classroomにて配信済み	2020年5月10日提出締め切り。詳細はClassroomを参照。	
第2回 課題回	上記担当教員	課題回(2) Google Classroomにて配信済み	2020年5月17日提出締め切り。詳細はClassroomを参照。	
第3回 5/12 ライブ 配信回	上記担当教員	異文化コミュニケーション「学」事始 1) オリエンテーション 2) 異文化コミュニケーション学の射程 3) 自文化/自民族中心主義に立ち向かう	<p>【予習】本シラバスを熟読し、趣旨、授業計画、評価項目を理解して授業に臨む(90分)</p> <p>【復習】授業全体の説明を踏まえ、自分の受講計画を立てる/授業で学んだ概念を用いて、自分の自文化/自民族中心主義的部分を言語化する(100分)</p>	

第4回 5/19 録画 配信回	上記担当教員	理論編(1) 異文化コミュニケーション学「今昔物語」 (岡部) 1)「異文化」はどこにある？ 2)「外国」と「異文化」は同じもの？	【予習】読み物(A)を再度読んだ上で、「自分の問い」を立てて授業に臨む(90分) 【復習】授業で学んだ概念を用いて、自分の自文化/自民族中心主義的な部分を言語化する(90分)
第5回 5/26 録画 配信回	上記担当教員	理論編(2) 異文化コミュニケーションとしての翻訳 (齊藤) 1) 翻訳とは何だろうか？ 2) 3種類の「翻訳」	【予習】読み物(B)を再度読んだ上で、「自分の問い」を立てて授業に臨む(90分) 【復習】授業で学んだことをノート等にまとめ、作品制作課題に備える(90分)
第6回 6/2 録画 配信回	上記担当教員	理論編(3) 異文化コミュニケーションにおける言語と文化 (今井) 1) グローバル社会での言語の捉え方 2) 国際語の文化とは？	【予習】読み物(C)を再度読んだ上で、「自分の問い」を立てて授業に臨む(90分) 【復習】授業で学んだことをノート等にまとめ、作品制作課題に備える(90分)
第7回 6/9 録画 配信回	上記担当教員	理論編(4) 異文化適応とカルチャーショック (高濱) 1) 異文化適応のモデルを理解する 2) カルチャーショックについて学ぶ	【予習】読み物(D)を再度読み、最終ページにある問いへの解答を再度考えておく(90分) 【復習】講義内容をもとに自分が体験したカルチャーショックの例を1つ思い出し、どのような段階があったかを振り返る。(90分)
第8回 6/16 録画 配信回	上記担当教員	理論編(5) 文化の深層構造—人は皆文化人— (原) 1) 文化の三層構造モデル 2) 価値観 3) 世界観	【予習】読み物(E)を再度読み、基本事項を理解し、自己の日常生活の中から事例を整理しておく(90分) 【復習】授業で学んだモデルや概念が、今後のさらなる自己理解と異文化理解にどのように応用できるかについて、考察を深める(90分)
第9回 6/23 録画 配信回	上記担当教員	理論編(6) 1) 理論編まとめ 2) 実践編への展開の説明 3) 作品制作課題の説明	【予習】これまでに学んだ「キーワード」を復習しておく(90分) 【復習】作品制作の準備を開始する(90分)
第10回 6/30 運営方法TBA	上記担当教員	実践編(1) ゲスト講義:異文化コミュニケーションを生きる(1)領域を越境してつなぐ ※ゲストとの調整後に詳細を通知予定	【予習】指定資料を読み、ゲスト講義の準備を行う(90分) 【復習】学んだ点を自身の作品制作に活かす方法を考える(90分)
第11回 7/7 運営方法TBA	上記担当教員	実践編(2) ゲスト講義:異文化コミュニケーションを生きる(2)領域を越境してつなぐ ※ゲストとの調整後に詳細を通知予定	【予習】指定資料を読み、ゲスト講義の準備を行う(90分) 【復習】学んだ点を自身の作品制作に活かす方法を考える(90分)
第12回 7/14 録画 配信回	上記担当教員	実践編(3) 異文化コミュニケーションを生きる(3)領域を越境してつなぐ ゲスト講義を異文化コミュニケーション学の視座から考える	【予習】指定された設問への回答を用意する(90分) 【復習】講義・ディスカッション内容を振り返りながら、ゼミ選択を含めたキャリアパスについて考えメモする(90分)
第13回 課題回	上記担当教員	実践編(4) [プロジェクト・ウィーク:制作編] 異文化コミュニケーション学にもとづく作品制作を行う。クラスメイトからのフィードバックを得て、改善する。	【予習】作品制作に必要な調べ物を行う(120分) 【復習】作品およびワークシート用意し、提出する(150分)
第14回 課題回	上記担当教員	実践編(5) [プロジェクト・ウィーク:鑑賞編] クラスメイトの作品を鑑賞し、コメントを	【予習】クラスメイトの作品を理論編で学んだ事柄と関連させながら鑑賞する(90分)

		執筆・提出する。	【復習】コメントを執筆し、提出する(90分)
第15回 7/28 運営方法 TBA	上記担当教員	総括 1) 作品制作課題へのフィードバック 2) 本科目のまとめ	【予習】これまでの授業で学んだ概念等を復習し、不明点がないか確認する(90分) 【復習】本授業で学んだ理論・概念等を、実際の社会での事象を結びつけながら振り返り、異文化コミュニケーションに関し新しく得た視点をノート等にまとめる(90分)

2020/02/25(火)10:05

授業科目名	グローバルヘルスサービス概論		授業形態	講義
英語科目名	Global Health Service		開講学期	後期
対象学年	2		単位数	2
科目責任者	加藤 洋一		ナンバリング	4103
科目担当者				
加藤 洋一、湯浅 資之、田村 好史、ニヨンサバ フランソワ、大野 直子、白山 芳久、鈴木 美奈子、峰松 義博、阿曾沼 元博				
授業の概要				
健康は誰にとっても非常に重要であるにもかかわらず、先進国のヘルスケアシステムは年々増加する莫大な費用に対応できず、限界に達しつつある。開発途上国では、熱帯風土病が今も大きな課題であり、同時にグローバル化している。これらグローバルヘルスの課題について理解するとともに、その解決に向けての行政、企業、医療サービス提供側の対応について学習する。その前提として、人の健康がいかにして保たれているかを知り、個々人が自らの健康を管理していく時代が来ていることについて理解を深める。				
授業の達成目標				
1. グローバルヘルスサービス各論を学ぶ上で、問題の所在がどこにあるかを説明することができる。 2. 現代の国際社会に求められるヘルスリテラシーにつき、その重要性と日本の抱えている問題点について説明することができる。 3. 健康を守るというローカルな営みに、グローバルな関与が求められる理由は何なのかについて意見を述べるることができる。				
成績評価方法				
講義への出席(および参加度)、リアクションペーパー、定期試験を踏まえ総合的に評価する。				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
一方向的な講義ではなく、講師と学生が双方向に意見を交換する授業形態を目指すので、学生の積極的な参加を期待する。				
テキスト・参考書				
テキストは使わず、毎回のテーマに沿った参考文献を、担当教員より指示する。				
オフィスアワー				
各教員のオフィスアワーを確認すること。専任教員以外は原則として授業の前後とする。				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
必要に応じて授業内で返却予定。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	木南 英紀	・グローバルヘルスとは何か ・過去のグローバルヘルスの取組み例 ・今日のグローバルヘルスの課題 ・グローバルヘルスの発展に重要な 予防医学	【予習】各国における平均寿命と収入との関係を調べること。(90分) 【復習】グローバルヘルスの重要な知識・情報を世界の人々と共有することの重要性を理解すること。(90分)	
2	ニヨンサバ フランソワ		【予習】(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)	
3	加藤 洋一	現代の国際社会に求められるヘルスリテラシー	【予習】ヘルスリテラシーの定義を調べ、「グローバルな疾病負荷」(GBD)のデータベースをウェブサイトで確認しておくこと。(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)	
4	鈴木 美奈子	21世紀の健康戦略:ヘルスプロモーションの歴史・概念・実践について学ぶ。 特に、オタワ憲章とバンコク憲章を中心に学習する。	【予習】ヘルスプロモーションに関するオタワ憲章とバンコク憲章に目を通しておくこと。(90分) 【復習】ヘルスサービスの方向転換についてまとめておくこと。(90分)	
5	鈴木 美奈子	企業におけるCSRと健康経営について、ヘルスプロモーションとの関連から学ぶ。グローバル社会を意識した新たなヘルスサービスやヘルスマネジメントについて考える。	【予習】CSRや健康経営について調べておく。(90分) 【復習】CSRや健康経営とヘルスサービスとの関連についてまとめておく。(90分)	
			【予習】糖尿病とその予防について教科書・Web検索など自己学習を行う。(90分) 【復習】授業で学んだ知識について、教科書の内容を再読して知識を整理する。(90分)	

6	田村 好史	糖尿病とヘルスケアシステム	糖尿病患者数は増加の一途を辿り、今後は予防的な取り組みが重要視されている。本章では、糖尿病の現状について講義し、その問題解決法についてグループごとに討議・発表することにより、糖尿病を取り巻くヘルスケアシステムについて理解を深める。
7	田村 好史	介護予防とヘルスケアシステム	我が国は世界で最も早く高齢化が進んでおり、世界的に注目されている。寝たきり、介護は財政的にも本人家族のQOLにとっても深刻な問題として認識されているため、今後何らかの打開策が必要である。本章では、介護の現状について講義し、その問題解決法についてグループごとに討議・発表することにより、介護を取り巻くヘルスケアシステムについて理解を深める。
8	峰松 義博	多岐にわたる(氾濫する)健康関連情報を元に、社会科学の視点から、「健幸(康)」について考える	【予習】健康関連情報についてWeb検索で調べる(90分) 【復習】授業内容(健康情報)の概要を理解する(90分)
9	峰松 義博	自分や家族の健康ライフプランを考える(発表と議論)	【予習】自分や家族(親、子)の健康ライフプランを考える(90分) 【復習】健幸(康)について捉え直す(90分)
10	大野 直子		【予習】(90分) 【復習】(90分)
11	白山 芳久		【予習】(90分) 【復習】(90分)
12	阿曾沼 元博	情報化社会の進展と我々一人一人の関わりに関して「電子カルテシステム」を通して考える →病院内電子カルテの歴史と現状 →PHR(パーソナル・ヘルス・レコード)や遠隔医療の現状と課題 →AIの進展が電子カルテシステムに及ぼす影響	【予習】各病院が導入を推進している電子カルテシステムの概略を調べておく(90分) 【復習】医療情報の利活用に関しては、国の医療制度との関わりが強いが授業で論じる制度との関わりに関して確認する(90分)
13	阿曾沼 元博	PHRや遠隔医療の実用化プロジェクトを学ぶ →「経産省の”どこでもMy病院”プロジェクト」を解説する →最新ナショナルプロジェクトである「1000年カルテプロジェクト」を解説する	【予習】地域レベルで行われている「地域医療情報システム」や患者中心の情報利活用の実態を調べておく(90分) 【復習】新たな仕組みを構築する場合、そのコストを誰が負担するかが大きな問題となる。医療制度、医療財源の確保の観点で医療の現場の課題を自分なりに考える。(90分)
14	湯浅 資之	高齢化社会到来	【予習】高齢社会の問題についてどのようなものがあるのか、インターネット等を利用して事前に調べ整理しておくこと。(90分) 【復習】高齢化にどう向き合うべきなのか、授業で学んだ対策を整理しておくこと。(90分)
15	加藤 洋一	まとめ —地球規模の保健・医療課題に取り組むために	【予習】グローバルヘルスサービス概論を通じて最も関心を持った領域につき、自分の意見をまとめておくこと。(90分) 【復習】授業の総振り返りを行うこと(90分)
